

第四節 防禦水雷關係(防禦部隊)諸施設

防禦水雷ハ其ノ有線水雷タルト否ラザルトヲ問ハズ敷設艦、掃海艇等ニ於ケルモノノ外概ネ防備部隊
 タリシ水雷隊、水雷敷設隊、水雷團防備隊ニ於テ之ヲ整備シ訓練セラレタルヲ以テ之等陸上部隊施
 設ノ變遷ヲ瞥見セントス 而シテ長期間ニ互リ之等部隊ノ主要任務ニ至リテハ不變ナルモ副任務トシ
 テハ多少ノ異動アリ從ツテ其ノ施設ニ於テモ若干ノ變遷アリキ
 有線水雷主用時代ニ於ケル施設ハ二十七、八年戰役時代迄ニハ未ダ完備セララルルニ至ラズ寧ロ貧弱ナ
 リシガ三十七、八年戰役時代ニ入り此種施設ハ概ネ完備セララルルニ至リ寧ロ四十年頃ヲ以テ其ノ絶頂
 トモ見ルヲ得ベキナリ左記ハ當時ニ於テ比較的完備セリト認メララルル防備部隊施設ノ一例ナリ

施設呼稱	用途其他記事
火藥庫	綿火藥庫、下瀬火藥庫、彈藥庫 <small>(小口徑砲彈、小銃彈藥等格納)</small> ニ區分ス

導火藥庫	
試驗室	
裝填裝備室	水雷裝填及裝備並ニ格納ヲ兼スルモノナルモ水雷罐ノミテ一倉庫内ニ格納シ接續函、鐵鎖、 繫維索等ハ水雷罐ト全ク異リタル倉庫内ニ格納スルモノアリ
電纜池、電纜貯藏用土窟	濕潤貯藏法、乾燥貯藏法ニヨリ選擇ヲ異ニス
埠頭、起重機	
鐵軌及旋轉盤	
魚雷調整所	
傳馬船格納所及引揚場	
水雷科倉庫	
木工鍛冶事業場	
衛所(方面)施設	試驗室、視察室、探海燈室、發電機室、檢潮所、水雷砲臺(射撃)
各部通信施設	

(備考) 右ノ外廳舎兵舎及附屬施設等アルモ記セズ

然ルニ大正初頭ヨリ有線水雷ハ漸ク其ノ聲價ヲ失シ機械水雷之ニ代フルノ狀況ニ在リシヲ以テ前記諸施設ノ新設整備ノ如キハ之ヲ停止スルニ至リシガ大正五年ヨリ七年ニ互ル有線水雷ノ全廢ニ依リ有線

水雷専用ノ諸施設ヲ廢スルト共ニ其ノ大部ハ機雷關係施設ニ轉換セリ之ヨリ先キ大正初頭ヨリ局地掃海任務ヲ防備隊ノ主要任務ノ一タラシメタルト世界大戰ノ結果新ニ爆雷、防材、防潜網等ノ所掌亦防備部隊ニ加ハリシガ爲其ノ施設ニ於テモ今ヤ三十七、八年戰役當時ニ比シ大ナル變革ヲ見ルニ至レリ即チ從來ノ有線水雷主用施設ハ機雷主用施設ニ變ジ尙掃海、對潜兵器(防潜網、爆雷、水中聽音器等)ノ整備保管施設ヲ加ヘ方面ニ於テモ水中聽音器主用ノ水中聽音所ヲ見ルニ至レリ

(備考) 大正九年六月八八艦隊整備上水雷兵養成ノ急ニ應セムガ爲横須賀、吳、佐世保ノ三防備隊ニ於テ普通科水雷兵ノ教育施設ヲ爲セシガ(十一年十一月之ヲ廢止ス)直接防備ニ關係ナキヲ以テ贅セズ(第二編第二章二節二項參照)

敷設術掃海術等ノ訓練其ノモノノ施設等ニ就テハ特ニ述ブベキモノナキモ之等訓練部隊ニ對シテハ夫々訓練用兵器又ハ需品トシテ所要數量ヲ供給シツツアルコト第四編第七章ニ記スルガ如シ亦爆雷訓練ニ就テハ昭和初頭ニ入り爆雷標的竝ニ教練用爆雷ヲ實驗研究シ夫々供給シ得ルニ至リシハ當該兵器編ニ略記セリ就テ視ルベシ

帝國海軍水雷術史(第四編終)